2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者一人ひとりが地域や家庭に於いて当たり前で暮らしてきた生活を、可能な限り自立して生活の継続を営むことができるよう理念を作りあげている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティングで理念の唱和をし、廊下やスタッフルームに理念を掲示をして常に意識できるようにされている。職員は日々の生活場面に於いて一人ひとりのその人らしい生活を把握しており実践に向けて取り組んでいる。		
2.地域との支えあい					
	3	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	校区の運動会、地域の夏祭り、花火大会、フリーマーケット、清掃作業等に参加し、小学校のボランティアの受入、野菜作りの指導の依頼、地元のショッピングセンターや食堂の人達との交流もなされている。		事業所は地元の高齢者との交流を目指し、地域のグランドゴルフの同好会の見学、手作り作品展の催しを企画されている。この地域は老人会の活動が無く、ホーム側から敬老会等の催し等近隣の高齢者が参加できるように取り組む計画をすることで、地域老人会を活性化し、地域との交流がより広がる事を期待したい。
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
	4	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は評価の意義の理解をしており、今年度の自己評価も運営者、管理者、職員が共に考え、各ユニットに於いて具体的な改善点を掲げ、改善目標を立て取り組まれている。		
	5	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	18年12月に第1回運営推進会議が開催され、現在3回目終了している。救命救急の講習や町内の活動情報収集や、ホーム側との意見交換がなされお互いの知識の広がりや立場を理解する会となっている。		運営推進会議のテーマに沿って、メンバーに包括支援センター、市職員、警察、消防署、地域住民等に幅広く参加を呼びかけられることを望みたい。又自己評価、外部評価を公表し、改善経過のモニター役となってもらうことで、意見をサービスに活かされる事が望まれる。会議では積極的に問題を投げかけて意見を貰って欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
		市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に市の職員参加は休日や時間によって参加が難しく、当ホームは会議録を窓口を持っていき意見を求める工夫をされている。又南部保健センターで献立に就いてのアドバイスを貰う事で食事のバランス、カロリー、糖尿病食、高血圧食等細かな知識を得ている。		市の担当職員にホーム側から出かけるだけでなく、運営推進会議への参加の呼びかけや、又日常的にも来てもらえる機会をつくりサービス提供で起こる問題の解決に向けて日頃から協働関係を作られることを期待したい。
4.理念を実践するための体制					
		家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ご家族には全員に暮らしの様子の便りや写真、小遣いの使用状況のコピー、請求書、ホーム便りを郵送している。健康に変化がある場合は電話で知らせている。又ご家族の面会時には日頃の様子や健康、職員の異動の知らせ、新任の紹介がなされている。		
		運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の意見、苦情、不満が書き易いように、玄関の目線の位置に意見箱を設置してある。そばのメモ用紙は3つのアンケートが書かれその下部分に要望を書く形式になっていて意見が書きやすく工夫されている。又苦情委員会を設けて、早期に対処している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は職員の異動が利用者にも与えるダメージは十分認識しているが各ユニットが均一なサービスとなるようにユニット内の移動をしている。声かけができるのでダメージにはなっていない。やむを得ず退職の場合退職者とお別れ会をしたり 退職後も遊びにこれる関係の配慮をしている。		
5.人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任採用時は生活の流れの中に於いて実地研修をしている。毎月1回夜勤者以外全員「谷山地区グループホーム勉強会」に出席して勉強をしている。そこでは知りたい事の提案に情報が交換できるので職員の学びの場となっている。夜勤者は伝達により学習している。法人内外の研修も積極的に参加している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	谷山地区グループホームは28のグループが参加していて、同業者の情報交換、交流、勉強、相互訪問がおこなわれたりサービスの質を向上させていく取り組みがなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人が納得できるよう何度もホームに出入りをして、職員や他の入居者の方と馴染む事ができるようにしている。急に入所となった人には家族の方に泊まって貰い共に食事をして馴染めるように支援されている。</p>		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は入居者の生活暦や趣味を知り、得意な事は出番の場面作り野菜の切り方、梅干しづくり、裁縫、洗濯の干し方、戦争中の苦労話、抹茶の点てかた等)をし、常に人生の先輩である事を意識しながら学んだり支えあったり一緒に過ごしている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>生活暦やご本人ご家族の会話の中や生活の中でのしぐさ等から、一人ひとりの思い(美容院、銀行、買い物、確定申告、投票に行きたい。好きなテレビが見たい。裁縫がしたい等)意向の把握をしている。意思表示のできない人は家族に聞いて持ちかけるように意思表示を確認している。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ご本人、ご家族の意向を確認し月一回スタッフ全員で一人ひとりの介護計画の見直しや支援方法などについて意見交換、カンファレンスを行い、ご本人やご家族の希望、要望を反映した介護プランが作成されている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎月初めに職員は夜勤者以外全員で入居者一人ひとりの現状がご本人やご家族の意向、現状に即しているかプランの見直しに取組んでいる。又状態の変化があった場合もご本人、ご家族、必要な関係者と随時介護計画の見直しがなされている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ショートステイの受け入れや体験入所をしている。又墓参り、美容院、マッサージ、通院等の外出支援の他外泊支援も行われてご本人、ご家族の要望に応じた柔軟な支援がなされている。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望するかかりつけ医を優先し、合意の上でかかりつけ医と連携を取りながら支援している。緊急時には往診を受けられる複数の医療機関の受診体制もできている。契約時通院の付き添いの説明はご家族にしており各自の希望する付き添い方法で受診し、受診後は情報伝達もなされている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に終末期についてご本人、家族の意向を聞いており、その方針は全員共有している。状況変化に応じて看護師さんが段階的に聞き取りをして説明もなされているが、説明の記録が無い。		入居後重度化した場合や終末期に対してのご本人、ご家族の考え方の変化を記録する事によって関係者全員の方針の統一を図ることが望ましい。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者、計画作成担当者は日頃一人ひとりの尊厳を大切にする具体的な言葉かけや介助方法を職員と話し合っって意識の向上を図っている。又職員はよく理解して対応している。個人情報保護法や取り扱いについても周知している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望や体調に配慮しながら起床時間、個室での食事、買い物、散歩、美容院行き、マッサージ行き、昼寝、菜園の植付け、草取り、収穫、裁縫、掃除、入浴等日々その人らしい暮らしの支援がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューに好みの意見を取り入れ、職員と入居者は本人の力量に応じ、一緒に菜園の収穫、食材の買い物、食事の準備(下ごしらえ、メニュー書き、配膳、箸やランチマットの準備)をし、楽しく会話しながら同じ物を一緒に食べ、後片付けをして楽しく食事ができる工夫をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人でゆっくり入りたい人、スタッフに手伝いを貰いたい人、一番風呂に入りたい人等一人ひとりの希望に沿って入浴を楽しめるように支援されている。又風呂嫌いな人にも楽しく入れるように本人の希望(一緒に入浴したり話し相手したり)に沿った入浴の工夫をされている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は入居者の買い物、菜園、散歩、掃除、料理、字を書く、テレビ、折り紙、裁縫、三味線等それぞれの楽しみ事の把握をし、日々の生活の中で出番としての役割をしてもらって事で生き甲斐になるように支援している。全員で月に1~2度は外食したり手弁当で花見に出かけたたり年一回は一泊旅行もしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	晴天の日は日課として散歩している。周辺のショッピングセンター、物産館、飲食街など出かけるところが多くある。又ホームの庭は広く芝生が敷き詰められ花等植えられ遠くに出かけられない人も外の陽や風に触れる事が出来るよう中庭の散歩が行われている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関やホールの窓は鍵はかかっている。外出傾向のある人は退屈させないようお喋りに集中するよう心がけている。万一の外出に備え外から見えないように上着の下に名前をつけている。又近隣の人やお店の人の協力がもらえるように普段から関係づくりにしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災の訓練は年二回夜間想定で実施し、地域住民の参加協力をもらっている。職員は夜間火災を想定し連絡網、マニュアル、消火器も備えている。常にイメージトレーニングしている。市に災害登録をしている。水害、地震訓練は計画中で対策がなされていない。		今後は台風、水害、地震に備え非難場所、誘導手順、食料、飲料水、トイレの確保、防寒用品等についてマニュアルを作成し、職員や利用者、地域の人達との避難訓練にも取り組んで欲しい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立については保健センターのアドバイスを貰って、一日の栄養バランスや摂取量を把握している。一日の水分量についても一日の流れの中で摂取できるよう目安の分量を決めている。摂取量の記録があり、足りない人には注意を払い、摂取確保に努めている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ドアの音がしないように工夫され、西日が当たらないよう窓にカーテンがされ、床は木目のフローリングで、部屋間違いが起こらぬよう入口に名前を掲げ手作りの暖簾がかかり、共用空間には季節の花が飾られ、廊下には鏡台があり、玄関には姿見のできる鏡が設置され、冬は炬燵を置くなど、色々な箇所に家庭的な配慮がされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の居室は備え付けの畳のベッドとクローゼットがあり、その他の備品は持ち込みとなっている。使い慣れた整理タンス、椅子、テレビ、時計、暖簾、花瓶、鉢植え、手折りのティッシュ、蛍光灯の紐、写真、仏壇、神棚、趣味の三味線、大正琴、お茶道具、自己出版の本等持ち込まれ、その人らしい個性のある部屋である。		